

Close Up



演劇への思いが導いた 同時通訳の仕事

私の「通訳」との出会いについてお話しすると学生はけっこう驚くのですが、一途な思いが道を開いたとでも言ったらいいのでしょうか。小さな頃から演劇が好きで、子役をしていました。大人になってもぜひ役者を続けたいと思っていましたが、演劇だけでは食べていけそうもありません。何かほかにギャラもステイタスも高い職に就けなにかと考えていた頃、テレビで同時通訳者を知りました。そこで、3歳から習っていた英語に磨きをかけようと高校卒業を待ってアメリカへ留学、大学を3年間で飛び級卒業し、日本で初めての同時通訳専門学校 ISS に入りました。同時に東宝のオーディションにも受かり舞台女優

大学教授、劇団主宰者兼役者、 通訳者。多彩な魅力が 学生たちの夢を育てます。

雨甲斐先生は現在、金城学院大学文学部教授と劇団「試演会」主宰者、二つの顔をお持ちです。また、シンポジウムなどでの同時通訳者、逐次通訳者としても30年近いキャリアを積み重ねています。先生は英語英米文化学科に通訳の入門クラスが設けられたのがご縁で、昨年からは教授に就任されました。お話を伺った時はちょうど演出される「身毒丸」(寺山修司原作)の舞台初日が迫る頃。演劇への思いそのままに授業や学生への情熱を話していただきました。

金城学院大学文学部
英語英米文化学科
雨甲斐 朱美 教授

ブレナウ大学地理学科卒業(アメリカ・ジョージア州)
Bachelor of Science (理学士)
研究課題 / 通訳訓練法、通訳訓練法を用いた英語教育の研究
演劇集団「試演会」主宰者

としての修行を始め、子どもの頃の願い通りの道を歩むことになりました。

やりたい芝居を追求するため自分で劇団を主宰

演劇では、2001年に一作ごとにオーディションをするブロードウェイ方式の演劇集団「試演会」を自分で作り、今は演出と役者の両方をしています。利益を求められチケット代が高くなってしまふ商業演劇ではなく、ある程度メジャーな作品を気軽にコーヒーでも飲むような感覚で楽しめる芝居として追求したかったのが劇団をつくった理由です。2001年には名古屋で、2002年には母校のプレナウ大学で三島由紀夫の脚本集から「弱法師」(よろぼし)と「卒塔婆小町」(そとばこまち)を上演しました。プレナウではセリフ



雨甲斐先生が演出・出演された11月公演の「身毒丸」

と同時にスクリーンに英語テロップを流したことで、アメリカ人に「ハラキリ」ではない、三島文学の脆くはかない美学を少しは伝えられたのではと思っています。来年は11月に名古屋で上演した寺山修司作の「身毒丸」をアメリカに持っていくことと、不条理コメディをやりたいと思っています。

私の講義を通して学生に何か大きなお土産を

私は芝居を見に来てくれるお客さんに、費やしていただいたチケット代と時間に見合うだけ楽しんでいただくことをモット

ーにしています。それは大学でも同じで、私の講義を通して、あるいは大学の4年間を通して何かお土産を持って行ってほしいと思っています。

私は現在、通訳訓練法とそれを用いた英語教育の方法を研究し、通訳のクラスを受け持っています。来年からはより実践的な通訳者を育てる「英語スペシャリスト養成プログラム」を始めます。2年生クラスの上位者20人しか受けられない厳しいプログラムになる予定ですが、同時通訳ブースを設けるなど通訳エージェンシーの実践的な養成ノウハウを用いて、私が同時通訳として長年培ってきた経験のすべてを学生たちにプレゼントしたいと思います。そして、2005年の愛・地球博には金城学院大学から一人でも多くの通訳者を出したいと思っています。

雨甲斐先生はこんな人

私たちが勇気づけてくれる「カッコいい女性」です。

先生のような女性には初めて出会いました。ひとことで言う

と「カッコいい女性」。子どもの頃にやりたいことを決めて、



通訳入門クラス2年生の皆さん

それに沿った人生を歩むなんて、私たちにはちょっとできそうにありませんが、先生のお話を聞くと勇気づけられます。もしかしたら私たちは最初から自分自身にはめてしまっているのかもしれないですね。厳しいですがよく身に付く授業をしていただけますし、研究室はいつもオープンで、ボランティア通訳やTOEICなどの検定のことなど、なんでも分かりやすく教えていただけます。演劇といい同時通訳のご経験といい、あこがれの女性ですね。